

## 平成22年第15回教育委員会定例会

開会年月日 平成22年8月9日(月)

場 所 教育委員会

出席者 教育委員会 委員長 外松和子  
 同 委員 内藤幸子  
 同 委員 天沼英雄  
 同 委員 安藤睦美  
 同 教育長 園部俊介

## 議 題

## 1 議案

(1) 議案第41号 練馬区立小学校教科用図書の採択について

## 2

(1) 陳情第4号 「八の釜の湧き水」と憩いの森の消失に関する陳情について〔継続審議〕

## 2 協議

(1) これからの生涯学習のあり方について〔継続協議〕

開 会 午前 10時00分

閉 会 午前 11時45分

## 会議に出席した者の職・氏名

学校教育部長	室地隆彦
生涯学習部長	郡 榮作
庶務課長事務取扱学校教育部参事	阿形繁穂
学校教育部新しい学校づくり担当課長	小暮文夫
同 学務課長	古橋千重子
同 施設給食課長	金崎耕二
同 教育指導課長	吉村 潔
同 総合教育センター所長	杉本圭司
生涯学習部生涯学習課長	臼井 弘
同 スポーツ振興課長	櫻井和之
同 光が丘図書館長	内野ひろみ

傍聴者 18名

委員長

それでは、ただいまより、平成22年第15回教育委員会定例会を開催する。

本日は、傍聴の方が18名お見えになっている。

それでは、案件にそって進めていく。

本日の案件は、議案1件、陳情1件、協議1件である。

まず、本日の会議の進め方についてお諮りしたいと思う。「議案第41号 練馬区立小学校教科用図書の採択について」は、案件の最後に審議を行いたいと思うが、よいか。

委員一同

よい。

委員長

それでは、そのようにさせていただく。

- (1) 陳情第4号 「八の釜の湧き水」と憩いの森の消失に関する陳情について〔継続審議〕
- (1) 協議 これからの生涯学習のあり方について

委員長

陳情案件「陳情第4号『八の釜の湧き水』と憩いの森の消失に関する陳情について」と、協議案件「これからの生涯学習のあり方について」であるが、本日は、教科書採択の審議を集中して行いたいいため、継続とさせていただきたいと思うが、よいか。

委員一同

よい。

委員長

それでは、先の2件は「継続」とする。

- (1) 議案第41号 練馬区立小学校教科用図書の採択について

委員長

では議案に入る。議案第41号 練馬区立小学校教科用図書の採択についてである。

来年度から使用する小学校教科用図書について、本日、採択を行う。この教科用図書の採択は、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第23条第6号の規定により、教育委員会の職務権限になっている。

採択にあたり、教育委員会は、4月に小学校教科書協議会に諮問を行い、7月20日開催の第8回臨時会にて、同協議会から答申を受けたところである。この答申を受け、教育委員会では必要な調査・研究を重ねてまいった。また、各委員におかれてもそれぞれ

れ調査・研究を行い、推薦する図書を選定されたことと思う。

そこで、本日は各委員から、種目ごとに推薦する図書の発行者名を発言していただき、採択してまいりたいと思う。

ここで、種目ごとの発言順位についてお諮りをしたい。

本日は、全部で11種目の教科用図書を採択するが、最初の種目である国語については内藤委員から行い、その後は種目ごとに最初の発言者を、天沼委員、安藤委員、園部教育長、そして再び内藤委員から行う順で進めてまいりたいと思うが、いかがか。

委員一同

よい。

委員長

では、そのように進めていく。

まず、国語である。内藤委員から発言をお願いします。

内藤委員

推薦図書を申し上げる前に一言御礼申し上げます。

私は、今回の教科書採択にあたり、学習指導要領の改善の基本方針等を踏まえ、練馬区小学校教科書協議会、各校研究会研究報告書、調査委員会調査報告書、及び教科書調査研究資料などを参考に、すべての教科書について検討させていただいた。資料提供等ご協力いただいた方々に、この場をお借りして心より御礼申し上げます。

国語については、私は、光村図書出版を推薦する。

今回の国語科の改善の基本方針として、特に言葉を通しての理解力、表現力、伝え合う能力の育成や、我が国の言語文化に触れて、感性や情緒を育むことを重視するということが挙げられている。光村図書は、このことを十分踏まえて編集されていると思う。

例えば読み物教材が豊富で内容も充実している。特に各学年とも表紙のタイトルに合った詩を最初に載せたり、児童の発達段階に応じて系統的に日本の古今の優れた作品を、美しい挿絵や写真などで日本の四季と巧みにマッチさせながら数多く取り上げたりしている。このように、我が国の言語文化を通して子供たちが日本の心に触れ、豊かな感性や情緒を育むことができるよう工夫されていると思う。

また、対話、記録、報告、要約、説明といった言語活動の学習が、6年間を見通して系統的、段階的、かつ反復して配列され、学習の積み重ねができるようになっている。このことで、言語能力が確実に身につく、日常生活や他教科の学習に活かされるようよく吟味された構成になっていると思う。

さらに、単元の終わりに、発展、広げるといった学習活動や、そのほか季節の言葉、漢字の広場、解説、本は友達などのページが発達段階に応じて設けられるなど、学びを深め、確かなものにするための工夫が適切であると思う。このような理由から光村図書出版を推薦する。

以上である。

委員長

ほかの方々はいかがか。

教育長

私も光村図書を推薦する。今回の学習指導要領の改訂では、言語活動を通して指導内容を身につけることが明示された。また、内藤委員もおっしゃったが、さまざまな言語活動を通して、その充実を図っていくことが重要であるとされている。

光村図書では、各単元の最初のページに、学習のねらいや中心となる言語活動や活動の流れが示されている。また、教材の後ろのページには、示された言語活動について活動内容や方法を具体的に掲載し、児童が見通しをもって学習を進められるように構成されていると思う。

また、習得したことを活用することができるようにさまざまな工夫がされている。その1つが、3年以上の各学年の最初の説明的な文章単元での2教材構成だと思う。また、文学的な文章の単元では、読み取りの力をつける教材の後ろに、同じ作者や同じシリーズの本を読む比べ読みなど、豊かな心を育む読書の充実につなげる構成となっている。詩歌等を含めて読むことの教材が非常に多い。また、表記に対しても全体的に色調が抑えられて紙面もゆとりを持って構成されているので、児童にとって見やすいと思う。

以上である。

天沼委員

私は、教育出版の教科書を推薦したいと思う。その理由について申し上げる。

巻頭に、「これから学ぶことを知ろう」があり、何を勉強するのか、学習内容が具体的に掲載されており、学習の見通しを持てるようになっている。同様に学習の手引きがあり、学習活動を助け導いてくれる形となっている。また、「ここが大事」の欄では、学習の要点、ポイントが具体的に示されていて、児童が確認できるようになっている。表現については、方法としてプレゼンテーションについて説明があるのは、新しい表現方法に触れるよい機会となっていると思う。また、ノートやメモ等についても、原稿用紙の使い方が説明されているが、これは大学生になっても、小論文やレポート作成の基礎知識として必要であるので、小学校段階で勉強しておくことはよいことだと思う。

内容面については、オードリー・ヘップバーンのユニセフ活動が紹介されているが、新聞などに掲載され親しみをもって接することができ、ユニセフ活動に対する理解が深められることが期待できる。

以上から、教育出版を推薦する。

安藤委員

どの教科書も「話す」、「聞く」、「書く」、「読む」という国語で学ぶものをバランスよく扱っていると思うと同時に、楽しく国語に親しむことができる教科書だと思った。調査・研究を最も楽しんだ教科の1つである。国語では、私は光村図書を推薦する。

まず、教科書全体の印象であるが、挿絵や写真が学年に応じたものになっていて、文章と一緒に楽しむことができると思った。また、行間をしっかりとっているからか、す

っきりしていて読みやすい印象を受けた。単元のねらいに合わせた教材の中には、古典的なものからごく最近書かれた今日的なテーマの文章まであり、バラエティに富んでいると思った。また、教材と別にたくさんの図書を紹介しているが、テーマを絞ったり学年に合った本の紹介をしている。例えば2年生では言葉のおもしろさや説明文がテーマの本、4年生では平和をテーマにしている本などである。また、それらの多くは、昔からなじみのあるよい本とされている図書が多く取り入れられている印象を受けた。

もう一つ、ローマ字の扱いが他の教科書に比べて比較的丁寧だと思った。ページ数だけではなく、コンピュータを使うときはローマ字の決まりと少し違うことなどが明記されていた。これらは、これから日常的にキーボード入力をするようになるであろう子供たちの世代にとっては大切なことだと思った。

余談ながら、練馬区では、長年この光村図書の教科書を使用している。選定の判断基準にはしていないが、3人の子供を持つ親として、音読や授業参観時に慣れ親しんだ文章に、数年置きに出会うのも楽しみの一つであり、同じ教科書を長年使うことの良さみたいなものを感じている。

つけ加えであるが、全体的な教科書選定にあたり、私も内藤委員がおっしゃったように、教科書調査委員会、教科書協議会からの報告書、各小学校からの報告書を読ませていただいた。ご協力いただいたすべての方々へ感謝申し上げます。私自身も、すべての教科書に目を通し、気になる箇所については何度も読み返し、調査・研究を重ねた。選定には真摯な気持ちで学ぶ子供たち、そして教える先生方の立場をできるだけ考えて取り組み、本日の推薦に至ったことをご理解いただきたいと思います。

以上である。

#### 委員長

各委員からお話が出ていたように、私も、教科書協議会からの答申、各種目の調査結果、各校研究会の内容等を参考にさせていただきました。携わった方々に御礼申し上げたいと思う。

国語であるが、国語は、各教科を学ぶ上で土台となる大切な教科である。また、母国語であって、その国語を理解し、思考し、想像し、表現していくことを学ぶ教科である。光村図書出版は、何人かの委員もおっしゃっていたように、私も教科書のよいところは同感である。その中で特に私が推薦したいと思った点は、書く学習活動ということである。1年から6年まで書く学習活動が系統立てて配列されている。どのようにしたら児童が書くことができるようになるかのステップも大変よく配慮されており、学ぶ過程で児童が達成感も味わいながら書く力を身につけられるよう編集されており、推薦したいと考える。

それでは、国語については光村図書出版でよいか。

#### 委員一同

よい。

#### 委員長

国語は、「光村図書出版」を採択する。  
続いて書写である。天沼委員から発言をお願いする。

#### 天沼委員

私は、学習指導要領の改訂を踏まえて、また東京都教育委員会の教科書調査研究資料と、練馬区小学校教科書協議会、教科書調査委員会の答申、及び練馬区小学校各校研究会研究報告書を参照させていただきながら、私自身も一冊一冊調査検討した。本日は、その結果、意見を述べさせていただく。ご協力くださった方々に感謝申し上げます。

では、書写の教科書についてであるが、私は、三省堂の教科書を推薦したいと思う。その理由を述べる。

まず、文字の由来や生活の中の文字など、広がりのある内容となっている。したがって、活字文化全体をよりよく知ってもらうことに役に立つと思う。書写の指導面については、毛筆では穂先の通り道や運筆について文章で丁寧に説明されており、腕全体の動きを扱っているのが、児童が自宅で復習する際の、例えば書き初めのときなどの注意する事柄が書かれていて大変よいと思った。

また、鉛筆あるいはフェルトペン筆についての説明文や、硬筆についての内容も書かれてあって、ノートを読みやすく書くことなど、書写を活かしその他の教科に対する活用、結びつきも見られる。毛筆、硬筆ともに大切であることが伝えられる教科書だと思うので、三省堂の書写の教科書を推薦したいと思う。

#### 委員長

ほかの方々はいかがか。

#### 安藤委員

私は、選定にあたり、どの教科書も工夫されており甲乙つけがたいと思った。今回、私は光村図書を推薦する。

光村図書を推薦した第一の理由は、国語の教科書で光村を推薦したからである。教材としてのつながりを感じ、国語の教科書と同じ出版社を推薦しようと思った。

つけ加えるとすると、毛筆の練習でキャラクターが筆の動きを説明しているのが、スー、トンなど子供たちにとって感覚で理解することができ、わかりやすいのではないかという印象を持ったからである。また、教材の中には実用的な例が取り上げられており、すぐにでも使用でき、将来的に役立つという印象を受けた。よって光村図書を推薦する。

#### 内藤委員

私も光村図書出版を推薦する。全体的にわかりやすく使いやすいよう工夫され、児童のよいお手本として優れていると思う。

具体的には、書写の基本姿勢や鉛筆の持ち方、道具の扱い方など、学習のしつけの基本的事項が明確に示され、指導に大変役立つと思う。また、毛筆における基本点画のポイントを濃淡の墨であらわし、大变的確な解説も添えられているなどわかりやすいと思

った。

さらに、今回の改訂の要点である、手紙を書いたり、記録をとったりするなどの実際の日常生活や、学習活動に役立つ内容として、例えば「6年生を送る会に向けて」や「わくわく漢字教室」など、優れたものが具体的に示され大変参考になると思う。

以上の理由から、光村図書出版を推薦する。

#### 教育長

私も光村図書を推薦する。

新学習指導要領では、書写の指導については、手紙を書いたり記録をとったりするなど、実際の日常生活や学習活動に役立つよう、内容や指導のあり方の工夫を図ることになっている。授業だけではなく、身につけた力が実際生活や学習の場面で使われる、活用されるところまで求められると思う。光村図書の教科書は、各教材において学習のねらいを大きくわかりやすく示していると思う。特に毛筆、書写のねらいのページには、薄墨で大きく一つ一つの点画が掲載され、筆圧や筆脈、筆の穂先の動き等が見てすぐにわかるように工夫されている。また、単に書写の技能を身につけるということだけではなくて、児童みずからが文字を書く決まりを見つけたり考えたりすることを大切にしたい視点で構成されていると思う。

また、習得した書写力の日常化については、日常で活かしている作例が多く掲示されている。また、安藤委員が話されたように、国語と書写に関連した内容を取り扱うことがより学習の効果を上げるということから、国語の教科書と書写の教科書では可能な限り同じ教科書会社のものがよいということも判断の一つになっている。

以上である。

#### 委員長

それでは、私のほうであるが、私も光村図書出版を推薦したいと思う。

今までにもお話があったが、特に入門期の1年生の鉛筆の持ち方指導に着目した。鉛筆の持ち方が示されている写真、絵、それが1年の児童に大変わかりやすく、また児童自身が自分の持ち方と比較しやすくなっており、意識化させるのに適切であると思った。それから姿勢に関しても、姿勢の正しいあり方の表示が具体的であるため、これも意識化し、習慣化しやすいと思った。

3年では、初めて毛筆を学ぶわけであるが、45分の授業の中で毛筆の用具を準備し、後始末までも行わなければならない。毛筆にかかわるさまざまな用具の扱い方、片づけ方が的確でわかりやすく、授業にも大変使いやすいのではないかと考えた。また、起筆、走筆、収筆の例示も明確であり、毛筆入門期の児童が学ぶのに適しているというふうに考える。

それでは、書写については光村図書出版でよいか。

#### 委員一同

よい。

#### 委員長

書写は、「光村図書出版」を採択する。  
続いて、社会である。安藤委員から発言をお願いする。

#### 安藤委員

どの教科書も、高学年になるにつれて資料や史料が多く掲載されており、中学校の歴史、地理、公民の学習へのつながりを意識されているのだなという印象を受けた。また、少し余談になるかもしれないが、これらの資料を見ているとき、最近のカラー印刷技術がすばらしいと思った。

実際の選定の教科書であるが、私は、東京書籍を推薦する。3年生から始まる社会科であるが、「めあて・しらべる・まとめる・いかす」と、段階的な学習手順がわかりやすく載っており、導入期に社会科的な作業を習得できる構成になっていると思った。

また、教科書中に出てきた重要単語を、「ことば」として欄外に平易な言葉で説明しており、単元の終りには、それまでに学んだ「ことば」を「学習のまとめ」として確認していることは、知識の定着を促すと思った。

さらにつけ加えるとすれば、教科書中のレイアウトがよいと思った。本文を囲むように関連資料が配置してあるのは、子供たちにとっても見やすいのではないかと思った。以上である。

#### 内藤委員

私は、東京書籍と教育出版との2社で大変迷ったが、最終的には教育出版を推薦する。今回の社会科の改善の具体的事項として、作業的、体験的学習や、問題解決的な学習の一層の充実が挙げられている。教育出版は、このことを十分踏まえて編集され、特に問題解決的な学習の構成、内容や流れが明確で、大変わかりやすく充実していると思う。

また、学びの手引きや吹き出し等で、学習や活動のポイントや、考え方のヒントや、多様な調べ方などを具体的に示し、学びの手助けになるよう工夫している。この問題解決的な学習を積み重ねることで、児童が主体的に学習を進め、社会的な見方、考え方を養うことができるよう工夫されていると思う。

また、単元の終りには、伝え合う、確かめる、広げ深めるという活動が設けられ、書き込みもできるなど、学びを深め確かなものにしようとする工夫も充実していると思う。

さらに、社会事象に対する新しい内容の情報が多く取り上げられていることや、写真、挿絵などの資料が豊富で、内容も適切で見やすく充実していることなどで、児童の興味・関心を喚起させることができると思う。

このように教育出版の教科書は、児童が学習活動を通して学び方を学び、確かな学力を身につけるようよく吟味され、工夫されていると思う。

以上の理由で、教育出版を推薦する。

#### 天沼委員

私は、東京書籍の教科書を推薦したいと思う。その理由について申し上げる。  
まず、指導学習面についてであるが、言葉の解説があり、言葉の意味を理解し大切に

使うことを学習することができる。学習の進め方の欄では、「つかむ」、「調べる」、「まとめる」、「活かす」といった流れで、学習を進める進め方を習得できる。また、学び方コーナーもあって、何を調べるのか、調べる視点が示され、子供のイラスト入りでチェックするといった工夫が見られる。学び方コーナーには、「見る」、「聞く」、「触れる」、「読み取る」、「あらわす」、「伝える」のコーナーがあり、さまざまな学習活動の展開が可能となると思う。

内容面では、国民主権についてわかりやすく説明されていてよいと思った。学習指導要領の改訂に伴う新しい教育内容については、身近な地域や市についてであるが、身近な地域の扱いのところで地域が特定できない内容となっているが、ここで練馬区を具体的な例として、「私たちのねりま」といった資料を活用して学習することをお勧めしたいと思う。

我が国の領土については、北方領土について「返還を待つ北方領土」という囲みで説明欄がある。が、竹島と尖閣諸島については、説明欄はない。政府見解は一致しているが、日本と韓国、中国の間では食い違いがある。今後解決が図られるであろう難しい問題について、有権者ではない子供たちの理解を統一しようとするならば、押しつけになる恐れもあり、無難な選択をしたいと思った。

神話伝承については、ほかの教科書同様に神話について説明があるが、「何々ではないかと考えられています」といった暫定的ではない扱いをしているので、よいと思った。

以上から、東京書籍の教科書を推薦したいと思う。

## 教育長

私も東京書籍を推薦したいと思う。理由は、東京書籍は、児童の主体的な学びを促進し、社会認識を習得する目的で編集されていると思う。

第1として、どの学年においても、社会科の基本である「人」への注目を促すために、仕事をしている人、買い物をしている人、行事に参加している人などを重点的に扱っている。このことは、人の営みに着目してその意味を探る社会科学学習の目標を強く意識していると言える。

第2として、全学年において他の委員からあったように、「つかむ」、「調べる」、「まとめる」、「活かす」の問題解決学習の過程によって学習を進めている。各ページには、「つかむ」、「調べる」等の学習過程を示す言葉が明示され、児童自身がどのプロセスで学習しているのかわかるようになっている。

次に、全学年で難しい言葉を脚注で解説し、理解を助けている。難しい語句をそのまま使うのではなく、平易な言葉で説明することにより、児童が一人で教科書を読み進められるようになっている。

次に第4として、歴史学習において地域の歴史調べを促す仕掛けが各所にあり、古い時代と現代の生活を結びつけている。また、古い時代の写真を掲載して現代の様子と比較しながら学習できるようにするなど、歴史の流れの中で現在の生活があることを意識するように意図していると思う。

第5として、公民的な分野については、政治や国会の働き等を、イラストを活用してわかりやすく説明している。文章による解説だけでは理解が難しい内容が多い分野なの

で、この工夫は児童の理解を図る上で効果が高いと思う。  
以上のことから、東京書籍を推薦する。

委員長

私は、教育出版を推薦する。

先ほど内藤委員も発言されていたが、問題解決的学習ができるように工夫、構成されている点が優れていると思った。ショートコーナーの学びの手引き、「伝え合う」、「確かめ考える」、「広げる」、「深める」等は、学び方を学ぶことができるという点でよろしいかと思う。

また、経験のない産業のところを学ぶことに関しては、写真が非常に効果的に使われており、自分の経験のない分野のことも理解できる、学習理解の補助になる、そのように構成されている教科書ではないかと考え、教育出版を推薦する。

それでは、社会については東京書籍でよいか。

委員一同

よい。

委員長

社会は、「東京書籍」を採択する。

続いて、地図である。園部教育長から発言をお願いします。

教育長

私は、帝国書院の「楽しく学ぶ小学生の地図帳」を推薦する。地図は、地図記号やイラスト、地名等を詳細に示すなど、情報量の多いこと、その中から児童が必要な情報を見つけ出すことにより、情報を収集して読み取る力を育てていくことが期待される。帝国書院のものは、情報量が多く見づらいという面も一面あるが、高学年児童の発達段階に見られる、いろいろなことを調べてみようという旺盛な好奇心にこたえる地図帳であると思う。

各ページに記載する地図についてであるが、国や都道府県の大きさや位置、周辺を理解する上で、周辺地域を深めた全体像が把握しやすい範囲が構成されている。また、発達段階を考慮して、日本地図では地方区分を重視し、世界地図は大き目のイラストを使用し、地名等の情報は少なくして、国の名前と位置がわかりやすいページづくりをしている。また、彩色も全ページにわたってはっきりした濃い色が使われているので、児童にとって見やすいものとなっている。

以上である。

安藤委員

私も、帝国書院を推薦する。

地図帳は、2種類の出版社からの選択であった。それぞれに異なる特徴や長所があり、内容的にはとても興味深いものであった。そんな中、私はより地図帳として明確なもの

として帝国書院を選んだ。資料は、資料集や教科書に任せ、地図帳としての役割をより果たしているものと思った。

帝国書院の地図帳は、地図であることにより重きを置いている印象があった。また、地方の特産品がイラストで地図帳に載っていたり、アメリカの地図にメジャーリーグの球場が載っていたりするなど、子供たちが興味を引きそうなポイントがあり、地図に親しむことができると思った。

以上である。

#### 内藤委員

私は、2社ともそれぞれ特徴があり、よく工夫されていると思ったが、東京書籍を推薦する。

東京書籍の地図は、一般的な地図帳というよりも、学習内容に沿った学習帳的色彩が濃いと思われる。その特徴を活かすことで、子供たちが授業の中で効果的に活用することができると思うからである。

例えば世界遺産分布図などのような、各学年の学習内容にあわせた用途別の地図が多いこと、作業帳のように書き込みができること、また東京が誌面の中心になっている地図を載せたり、地図の見方や使い方も、地図とは何だろうと、子供の立場に立っての課題ページになっていたりして、児童の興味・関心を高めるような工夫があることなどが挙げられる。使っていくことで、子供にとってより身近な地図帳になると思う。

以上の理由で東京書籍を推薦する。

#### 天沼委員

私は、帝国書院の地図を推薦したいと思う。その理由について申し上げる。

世界の国々の地図では、挿絵や日本列島の位置を入れるなど、日本との位置関係がわかるように工夫がなされている。地形も高低の違いを色分けし、山脈の高いところでは茶色にするなどわかりやすくしてある。また、地図帳で扱う内容の項目数は20ないし21項目と多く、社会科の資料としての側面を兼ねていると思う。地形と位置を第一にしている地図帳と思ったので、帝国書院の地図を推薦する。

#### 委員長

私も、東京書籍と帝国書院の2社は、それぞれ特徴があり工夫されていると思った。その中で帝国書院を推薦したいと考える。

理由の第1は、先ほどから話が出ているが、情報量が多く、あとは大変にはっきりとすっきりとして地図が見やすいという点である。天沼委員も発言されていたが、高い山などは見ただけでそれがわかるように色づけがされている。使用に関しては、細かいところも見てまいるので、見やすく、判別しやすいというのは、児童にとっては大切であると考えます。

第2点目は、地図の使い方の説明が大変にわかりやすい点であった。また、児童が自主的にこの地図帳を使っていくことができると、授業以外に、例えばニュースを知ったとき、何かイベントが開催される時、また自分の親が出張するとき、家族で旅行に出

かけるとき等、日常の暮らしの中でその地域を確認したりと、生きた学びにつながるものが地図帳でありたいと考えている。そういうときにこの帝国書院の地図帳は、非常に見やすく、使いやすいのではないかと考えた。

それでは、地図については、帝国書院でよいか。

委員一同

よい。

委員長

地図は、「帝国書院」を採択する。

続いて、算数である。内藤委員から発言をお願いします。

内藤委員

私は、東京書籍を推薦する。現在、算数科の課題として、計算や公式の意味理解が不足している。知識、技能を生活や学習へ活用することが不十分であることなどが挙げられている。東京書籍は、この課題の解決を図り、改善の基本方針である子供たちの学ぶ意欲を高め、基礎的、基本的な知識、技能を確実に身につけ、数学的な思考力や表現力を育てるとのことのための方策が、具体的に示された内容や構成となっていて、大変優れていると思う。

例えば各単元の導入部分で、絵や図、写真を使い、日常生活やこれまでの学習に自然につながり、児童の興味・関心を喚起させるようにしている。また、授業が児童の考え方を活かした問題解決的学習で進められ、学び合いや発展の学習も考慮されるなど、児童の主体的学習を促し、数学的な思考力等を養うよう工夫されている。

さらに単元の終わりには、力をつける問題、算数のお話、仕上げの問題、覚えているかな、巻末にはおもしろ問題、補充問題などを設け、学習活動のねらいを明確にし、確かな学力の定着やその活用が図れるよう工夫されている。加えて、活動や考え方の手がかりとなる吹き出しやコメントが適切に挿入され、ページのレイアウトもすっきりと見やすくなっているなど、わかりやすいようさまざまに工夫されている点もよいと思う。

以上の理由から、東京書籍を推薦する。

天沼委員

私も、東京書籍の算数の教科書を推薦したいと思う。最初は、学校図書もよい教科書と考えて悩んでいたのが、最終的に東京書籍にした。

その理由は、大変すっきり見やすく大切な事柄を枠で囲むなど、視覚的にとらえやすい工夫がなされていると思ったからである。問題解決型の授業展開を取り入れやすく、多様な考え、伝え合いなどを通し、数学的な考え方を学べるものとなっていると思う。また、ノート主導の例示が示されていて、「学びの記録」、「マイノートをつくらう」のコーナーなど、わかりやすいノートづくりを通じ、今後にも生きる学習の基礎となるノートづくりを支援している。また、振り返るページが示されているのも、自主的な学習を支援し、前後の学習の連続性を確かにするよい工夫であると思う。

内容面については、少々細かいのであるが、「あまりの問題」、あるいは「暗算の仕方」、「比の問題」、あるいは「倍数問題」など、比較的わかりやすく、またスペースをとって扱っているので、よい教科書だと思ったので、東京書籍の算数の教科書を推薦したいと思う。

#### 教育長

私は、大日本図書の「楽しい算数」を推薦する。新学習指導要領では、国語科、社会科、算数科、そして理科の4教科の標準授業時数が各学年とも増えた。4教科のうち、算数科が最も増えた。理数教育の充実という視点から調査・研究を今回の教科書採択にあたってはした。その結果、今言った大日本図書を推薦する。

その理由として、授業で楽しく学び、算数が好きになることを目的として編集されていると思う。

その理由の1つとして、児童の問題解決能力を高める学習過程を全単元に適用することで、意欲の向上と学力の定着を目指していることである。「課題提示」、「考える」、「調べる」、「あらわす」、「説明する」、「話し合う」、「まとめる」、「練習する」、「振り返る」の流れで繰り返し学習し、みずから学び考え、活かす、児童の育成を進めていると思う。

次に、算数的活動の充実である「わくわく算数ミュージアム」で算数的な考え方を活用し、クイズを解いたり、メビウスの輪を紹介したり、児童の好奇心を引き出す活動が設定されていると思う。

また、個に応じた学習の充実を挙げられる。基本の確かめやもっと算数など、理解度に応じた対応を考えている。また、生活の関連を重視していることも挙げられる。単元の導入では、生活場面から題材を選択し、生活の中の算数コーナーでは、実生活と算数との学習内容の接続を図っている。そのほか、そろばんの充実、3年上からの巻頭における「ノートの達人になる」のコーナーなどは、ノートづくりを支援するという意味からもよいと思う。

以上のことから、大日本図書の算数科を推薦する。

#### 安藤委員

私は、日本文教出版を推薦する。

単元前の導入、「次の学習のために」と、単元後の「確かめポイント」、「じっくりチェック」、「ぐっとチャレンジ」などがとても明確だと思った。B5の横大判を使用することによって、テキストの右側のガイドに同時にやっておきたい、「試してみよう」や、ヒント、わからなかったときに戻るページが明記してある。それ以外にも、子供に話しかけるように説明や励ましが書いてあり、「もう一度考えよう」では、簡単な復習もできるところがいいと思った。各学年の終りには問題集があり、学力の定着を図ることができると思う。

さらに6年生の最後には数学的な読み物のページがあり、子供たちが小学校の算数の勉強にとどまらず、数学に親しみやすくできていると思った。大判の教科書には、重くて扱いにくいのではないかなどとの批判もあるようであるが、お道具箱やランドセルに入らないような大判はなく、むしろ誌面のゆとりがあったり、見開きで見やすかったり

するので、これも時代の流れなのかなと思って受けとめている。  
以上である。

#### 委員長

各社とも、児童が自主的に学べるように教科書が配慮されてつくられていると見た。  
その中で私は、東京書籍を推薦したいと考える。

理由としては、まず、ノートの書き方の例示がはっきりとしている。単元の初めに復習問題がある。仕上げの問題では、児童が、自分がどのくらいその学習が身についたかが確かめられる。さらに、その右サイドに問題を解くためのヒントがある等、児童の理解、習得へのステップがわかりやすくなっている。これは、学習指導要領の目標にある「算数的活動を通して、数量、図形についての、基礎的、基本的な知識・技能を身につけ」に即していると考えた。

それでは、算数については東京書籍でよいか。

#### 委員一同

よい。

#### 委員長

算数は、「東京書籍」を採択する。

続いて、理科である。天沼委員から発言をお願いします。

#### 天沼委員

理科の教科書については、私は、東京書籍の教科書を推薦したいと思う。

その理由であるが、学習指導要領の観点をよく踏まえた教科書で、実験、観察、野外観察を通して学習し、確かめるといった体験的な学習がしやすくまとめられている教科書だと思う。そして単元のまとめについては、括弧の中に言葉を記入する方式で、学習ノート、もしくはサブノート方式の活用もでき、先生方にとって確かめとして活用しやすく学習の定着を図ることができると思った。また、各単元の導入部に「思い出そうコーナー」があって、既習事実を確認することは、今日の学習に役に立つとともに、確かな学力の形成に有効なあり方、方法であると思う。また、例も豊富で、6年生の飛び出る人体模型の付録、これなども授業に活かせるものと思ったので、東京書籍の教科書を推薦したいと思う。

#### 安藤委員

私は、大日本図書を推薦する。

この教科書の印象として、自然に親しみ、見通しを持って観察し、考察、結果・結論までが段階的に学習でき、実感を伴った理解ができるようになっていたと思った。大日本図書の教科書は、今回の教科書に多く見られるB5のワイド判ではあるが、4年生以上は上下の2分冊になっており、批判というか、懸念の対象とされている重さの対策はされていると思った。ハテナマークで何を学ぶのかが明確にされており、教科書全体的

な印象がとても楽しそうであった。写真、絵ともに豊富に掲載されており、わかりやすく、特に具体的に観察する場合には絵で示してあるなどの工夫が見られた。これは、子供たちが見本にすることができるのではないかと思った。3年生には、ワークのシールが巻末についており、低学年ならではの楽しみながらの学習ができると思う。また、事故が起こりやすい高学年の実験に際しては、どの点をどのように気をつけるか、丁寧に注意喚起しているところがよいと思った。

以上である。

#### 内藤委員

私は、今、お二人のおっしゃった東京書籍と大日本図書で大変迷ったが、最終的には東京書籍を推薦する。

理科の改善の具体策の1つに、見通しを持った観察、実験などを通して問題解決の能力を育てる、実生活と関連づけて実感を伴った理解をはかるとあるが、東京書籍は、まずこの点が特に重視された編集になっていると思えるからである。例えば最初に、理科の学習全体の進め方を示し、各単元は単元ごとに全体をつかみ、詳しく調べ、まとめ、広げ、活用する等の学習課程が明確に構造化されている。このことで子供たちは、単元ごとに何をどんなふうに学習するのか、見通しを持って学習することができると思う。また、拡大写真や図、キャラクターの吹き出しなどが、児童にとって学習活動のねらいや内容、方法がわかりやすいよう効果的に示されている。これらの問題解決的学習等を着実にを行うことで、理科の目標である科学的な見方や考え方が養われることと思う。

また、「思い出そう」、「確かめよう」、「やってみよう」、「活用しよう」などの振り返りや、実生活への活用、発展などの学習活動が単元ごとに系統的に構成されていることや、巻末の資料のページが充実していることなど、理科の基礎的、基本的知識、技能の定着が図れるよう、さまざまに工夫されている点も優れていると思う。

以上の理由で東京書籍を推薦する。

#### 教育長

私は、大日本図書の楽しい理科を推薦する。理科は、3年生から学ぶ教科である。新学習指導要領において生活科との関連を図るとともに、中学校理科との系統性を踏まえた指導法の改善が求められている。また、科学的な見方や考え方を育てていくため、観察、実験や自然体験、科学的な実験の充実が求められている。全体的な構成では、児童の関心を高め、考え方の流れに沿った無理のない構成だと思う。また、実験方法が丁寧に説明されていて、注意点もわかりやすく示されている。

例えば実験の最後、安全めがねも、青色のめがねを使われる点などもよいと思う。また、日常生活では物を燃やす体験をほとんどの児童がしていないと思うが、児童の体験活動での不足を補う観察や実験方法について丁寧に記載されると思う。また、各単元末に「振り返ろう」、「学んだことを活かそう」のページが設定され、児童自身が学んだ内容を確認することができる点もよいと思う。また、科学的な思考力、判断力、表現力の育成性を図るため、観察、実験から得られる結果と、結果から導き出した考察を分けて記述しているので、児童は結果と考察を区別して思考し、表現することができると思う。

また、6年生の大地のつながりの学習では、モデルとなる地層の写真とスケールが入れているので、学びの手助けにもなると思う。また、4年生の栽培教材であるツルレイシは、大きくなるのも早いし、また緑のカーテンでも使われているので、環境学習に活用することもできるのではないかと考えている。

以上のことから、大日本図書の理科を推薦する。

委員長

私は、大日本図書を推薦したいと思う。

それは、実験、観察へのステップが丁寧で、学習指導要領の目標にある見通しを持った観察、実験を行うに、児童がこの教科書で学ぶことで、児童みずからが見通しを持って学ぶことができるのではないかと考えた。これは、先ほど安藤委員も発言されていたとおりである。薬品を扱うとき、液を熱するときは、教育長もおっしゃっていたように、安全めがね着用の写真があり、事故防止意識が明確に持てるようになっている。また、危険なことについては、注意書きもしっかりと記されているのがよいと思った。

それでは、理科については大日本図書でよいか。

委員一同

よい。

委員長

理科は、「大日本図書」を採択する。

委員長

続いて、生活である。安藤委員から発言をお願いする。

安藤委員

私は、学校図書の教科書を推薦する。理由は以下の4点である。

1年生の初めの時期には、まだそれほど器用に字を読めない1年生が、字に気をとられることなく絵を見て学校の楽しさやルールについて学べること。

少し細かい指摘かもしれないが、牛乳パックや空き缶を使ってのおもちゃづくりで、終わった後にリサイクルや分別ごみの出し方まで指導しているところに好感が持てた。

3つ目に、外国人や体の不自由な人、お年寄りが自然な形で教科書に載っており、世の中にはいろいろな人がいることを自然に当たり前のこととして受けとめることができると思った。

最後に、2年生の終わりには、「調べ」、「記録」、「発表」と、段階を踏んで学ぶという3年生以上の理科や社会科はもちろん、他の教科にもつながる学習ができることや、調べ学習等でお世話になった方々へお礼を言うことなど、当たり前のことかもしれないが、改めて学習するという姿勢がよいと思った。他の教科書に比べて重量感があるというマイナス点を差し引いてもいい教科書だと思い、学校図書の教科書を推薦する。

## 教育長

私は、教育出版の『みんななかよし』、『なかよしひろがれ』を推薦する。

上巻では、「みつける」、「比べる」、「たとえる」、「活動」という活動を繰り返し取り入れていること。また、全身で自然のすばらしさを感じることができる構成となっている。下巻では、上巻で培った経験を活かし、目に見えないものの働きを発見する活動となっている。体験活動が第3学年以上の理科につながるように工夫されていると思う。

内容では、全単元にわたり友達や保護者、地域の人など、身近な人々との双方向での交流活動が設定されており、交流を通して学習が高まり深まっていくように活動が工夫されていると思う。

また、お話の時間、発表会が設けられているので、話し合ったり、伝え合ったりするという言語活動の充実も図られていると思う。構成も小単元が見開き1ページでまとめられており、児童が学習の見返しを持ちやすいように工夫されていると思う。

また、巻末資料の関連ページ、他教科との関連などが示されているので、目標を持って学習できるように配慮されている。また、表記については、文字や記号が写真やイラストと重ならないように配列されているのもよいと思う。

以上である。

## 内藤委員

私も、教育出版を推薦する。

生活科は、子供たちのさまざまな体験不足を補うために、平成になってから新設された教科である。その特質として、体験活動を重視することは変わらないが、実施から約20年たった現在、主な課題として、学習活動が体験だけに終り、気づきを高める指導が不十分ではないか。また、表現の出来ばえのみ目指す学習活動に傾き、活動や体験を振り返る指導がなされていないのではないかなどの指摘がある。これらの課題を受けて、今回の改善の基本方針が提言された経過がある。

教育出版の図書は、それらの課題解決を図るための方策が、具体的かつ適切に打ち出されていると思う。例えばキャラクターの吹き出しの言葉が気づきを促したり、高めたりする上で、適切な内容と適量な分量であること、メモリーノートで活動や体験の1年間の振り返りができること、学習のねらいがわかりやすくなるよう見出しが工夫されていること、他教科の素地となる、基礎的、基本的事項の定着を図るため、巻末に「ぐんぐん力ポケット」、「ぐんぐん学ぶポケット」が掲載され、各単元や他教科に活用が図れるよう工夫していることなどが挙げられる。このように生活科の課題を受けて全体が系統的に整理され、具体的な方策を示すなど、授業に活用しやすいような図書になっていると思うので、教育出版を推薦する。

## 天沼委員

私は、啓林館の教科書を推薦したいと思う。

この教科書を推薦する理由であるが、幼稚園や保育園などから学校に入学したばかりの年齢の子供ということを思って、この教科書を選んだ。

遊びについてであるが、いろいろな国の遊びにチャレンジがあって、子供にとって異

なる遊び文化に触れるものとなっていて、遊びから異文化を知ることができるものと思う。本書は上巻、下巻に分かれている。上巻では、「楽しかった1年間」、「できるようになったことは何かな」、「さあ、もうすぐ2年生だ」といった、1年間を振り返り新しく2年生になる心の準備がある。下巻では、「身近な地域を知る まち探検」と、「まちのこと」の単元に分かれている。まち探検では、「まち発見」、「お礼の気持ち」、「行きたいところ」、「会いたい人」といった、人々や地域とのかかわりについて学ぶ視点が工夫されている。人や地域とのかかわることの大切さを知ることができる工夫があると思う。

また、まちのことでは、「夏休みの生活 つくって遊ぶ」となっていて、自分自身とのかかわり、自分の生活のあり方と結びつけて学習することができる。家族とのかかわりを大切にしたい。別冊では、「生活名人ブック」があり、家庭でこれを使えばコミュニケーションを図ることができ、日常生活に活かすこともできると考えた。また、全体として大きなイラストでかかれてあるのも本書を選択した理由である。

私は、啓林館の教科書を推薦する。

#### 委員長

私は、教育出版を推薦したいと思う。

生活科は、先ほども発言があったが、1～2年生が具体的な活動や体験を通して、自分、身近な人々、家族、社会、自然とのかかわりについて関心を持ったり考えたりする学習であり、また生活に必要な習慣や技能を身につけ自立への基礎を養う、そういうことが目標の教科である。この1年生、2年生の児童の興味・関心・意欲を喚起するよう、すばらしい写真を使い、イラスト、資料、学び方のスキルなど、その辺がよく配慮されており、教育出版が適切ではないかと思った。

具体的なこととしては、先ほど発言もあったが、巻末の「ぐんぐん力ポケット」、「ぐんぐん学ぶポケット」、これは、学習を進めていく上でスキルとして資料となっており、また他教科とも関連して学ぶことができる、そういうふうになっている。

また、つくりと内容の関係であるが、ページの左側にあるこの縦のカラー帯というのが、学習のねらいや参考となる資料、関連する他教科がすぐわかるように示されている点も学びやすいのではないか、そのように考えた。

それでは、生活については教育出版でよいか。

#### 委員一同

よい。

#### 委員長

生活は、「教育出版」を採択する。

続いて、音楽である。園部教育長から発言をお願いします。

#### 教育長

私は、教育出版の「音楽のおくりもの」を推薦する。

基礎・基本の力を身につける主要部分の発展的な単元を、児童の発達段階に即した配

列をしていると思う。このことは、音楽活動の基礎的な能力を育むための児童の意欲的な活動を促すものとする。また、鑑賞領域の内容に感じ取ったことを書き込むことができる欄が設けられている。話すだけではなく、文字であらわすことにより言語活動の充実を図ることができる。さらに、活動する写真や資料の写真を多用し、全合唱曲の手話通訳なども掲載するなどの工夫も見られる。また、6学年の日本古謡での越天楽今様については、言葉の意味や時代背景、歌詞の形成などについて詳しく説明している。また、日本の伝統楽器については、解説するだけでなく楽譜をつけて例示し、発展的に学習できるように工夫されていることもいいと思う。

以上のことから、教育出版の教科書を推薦する。

#### 安藤委員

私も、教育出版を推薦する。

まず、1年生から6年生までの共通の曲として、今の子どもたちになじみの深い「さんぼ」が取り上げられている。1年生から6年生が同じ曲に段階に応じて手話を交えた歌唱活動に取り組めることがいいと思った。また、教科書中の挿絵であるが、1年生のころからいわゆるイラスト的なものより情緒的な挿絵が主流となっており、学年が上がるにつれてさらに情緒的な写真や挿絵で想像力を膨らませることができるといった。高学年になると、いろいろな楽器の紹介があるが、演奏者の名前が出ているところがとてもいいと思った。各教科書の冒頭には、アーティストの写真、説明に加えて、彼らからのメッセージが掲載されていることは、音楽好きの子どもたちだけではなく、多くの子どもたちにとっていい刺激を与えるのではないかと思った。また、教科書の構成面であるが、3年生以上の教科書の巻末には、折り込みのページでリコーダーの指使い、音符、休符、記号が掲載されている。不安な児童が、楽譜を見るのと同時にそれらを確認することができることがとても親切だと思った。

以上である。

#### 内藤委員

私も、教育出版を推薦する。

教育出版は、まず、選曲がよく美しく明るい挿絵や写真のレイアウトも大変楽しそう、児童の興味・関心を喚起し、音楽のよさや楽しさを実感させる編集になっていると思う。また、学習のポイントがわかりやすく各ページに示されていること、リコーダーなどの楽器の演奏の仕方のポイントも大きくはっきりと示されていることなどの工夫が、児童の主体的学習を促すと思う。さらに、巻末の音楽のもとなどでは、発達段階に応じて共通事項や基礎的内容がわかりやすく整理され、音楽活動の基礎的能力がしっかり身につくよう工夫されている。

以上の理由から、教育出版を推薦する。

#### 天沼委員

私は、音楽の教科書は東京書籍の教科書を推薦したいと思う。その理由について述べたいと思う。

この教科書は、「日本の子守歌を歌おう」や低学年の「わらべ歌」、そして「日本の歌心の歌」といった日本固有の歌がある一方で、5年生で「アジアの音楽」、6年生で「沖縄の音楽」を学ぶ内容が含まれている。子供たちに歌い継がれる歌と世界の歌を歌うといった側面から、音楽の楽しさに触れることができると思う。音楽の森では、10曲程度紹介されていて、選択的な扱いも可能となり、児童が興味を持ったものを選択して学ぶことができる。また、各曲の表題の上に「相手の節を聞きながら歌おう」とか、「鍵盤楽器に親しもう」、あるいは「列車の旅の音楽をつくろう」など、このページでは何に気をつけてどうするのかと、はっきり児童にポイントをつかませようという工夫がなされている。また、見開きページの右下サイドのところに、「様子を思い浮かべながら気持ちを込めて歌えたかな」などと児童に問いかけ、自分で判断し、納得ができるものだったかどうかということ、そして、授業の参加を促す進め方ができるようになっており、よいと思った。

以上が東京書籍の教科書を推薦した理由である。

#### 委員長

私は、教育出版を推薦したいと思う。

学習指導要領の目標にある音楽活動の基礎的な能力を培い、豊かな情操を養うが達成されるよう、児童の発達段階に即して系統的に学べる構成になっている。文部省唱歌の「茶摘み」の曲には、3年生の児童には理解しにくいと思われる歌詞の言葉の説明も記載されていて、豊かな情操が培えるようになっている。また、リコーダーの学び方は、その扱いが丁寧でわかりやすく、児童がみずから進んで自分の好きな曲を練習したいというときなども、技能を確かなものにできるよう導かれているつくりとなっているところがいいと考えた。

それでは、音楽については教育出版でよいか。

#### 委員一同

よい。

#### 委員長

音楽は、「教育出版」を採択する。

続いて、図画工作である。内藤委員から発言をお願いします。

#### 内藤委員

私は、日本文教出版を推薦する。

日本文教出版は、魅力的な題材が多く、写真や作品例が児童の活動意欲につながるよう吟味されているので、子供の思いや願いや活動が広がる内容となっていると思う。また、完成作品だけでなく、制作過程もイラストや写真、吹き出しなどでわかりやすく示されているので、児童が自分で作品づくりを進める際、参考になると思う。さらに、基礎的な能力が身につくよう、題材が精選されていることや、サブタイトルのつけ方が学習の目当てをつかめるよう工夫されている点も優れている。このようなことから、表現

や鑑賞の活動を通して、図工科のねらいであるつくり出す喜びを十分味わうことができると思う。

以上の理由で日本文教出版を推薦する。

#### 天沼委員

私は、図画工作は東京書籍の教科書を推薦したいと思う。その理由についてである。

『いいこと考えた』という教科書の書名がおもしろく、創意工夫するという観点が表題とされていると思った。実際、児童が主人公となって制作している様子の写真がふんだんに使われており、親しみを持って接することができると思う。例として掲載されている作品も、アイデアが斬新であったり、遊びを取り入れ児童が自分でもできそうだという気持ちにさせてくれそうである。また、みんなの道具箱では「切る」、「くっつける」、「結ぶ」、「紙の工作」、「木の工作」など、丁寧にイラスト入りで説明がなされており、児童が自分一人でもできる説明となっている。「見てみよう」、「やってみよう」では、命、心、夢を描いた手塚治虫氏が扱われており、練馬の子供にもゆかりのあるアニメーションの代表作品が紹介されていて、図画工作で勉強するのは身近にすることができよい機会であると思う。最後に、教科書の左ページ下に赤字で、安全面に配慮した注意書きがあるのも推薦の理由である。

以上、私は東京書籍の図画工作の教科書を推薦する。

#### 安藤委員

私は、開降堂の教科書を推薦する。

新学習指導要領にある感性を働かせながらつくり出す喜びを味わうことに対応し、子供たちが楽しそうと興味を持つような、色彩豊かで想像的なアーティストや子供たちの作品例がたくさん掲載されている。また、開降堂は1年生の教科書から巻頭でアーティストの作品を紹介すると同時に、現代アーティストの作品や本人の写真とメッセージが紹介されている。低学年のときから著名な作品を知ったり、アーティスト本人からの語りかけを受けたりすることは、造形活動にも影響を与えるのではないかと思った。各教科書の巻末には、道具箱という図工で使用する道具や工具の使い方が載っていたり、安全上の注意が掲載されていたりするなど細やかな気配りを感じた。

それらを理由に、私は開降堂の教科書を推薦する。

#### 教育長

私も、開降堂出版を推薦する。

1つ目の理由は、学習課程を統一し、これを繰り返すことで児童の主体的な学びを促していると思う。図画工作を通して児童に培いたい力を目当てとして、3種類のマークで示している。また振り返りで自己評価させ、各題材でどんな力が身についたかを確認できるようになっている。また各単元は、基本的に見開きで構成され、左ページの左上に目当て、右ページの右下に振り返りを配置し、統一して編集しているので、特別な配慮を要する子にも理解しやすい工夫がされていると思う。

2つ目の理由は、発想を広げる工夫がなされていることである。青い丸囲み線には、

作品づくりのヒントややってみたくなる技法などが記述され、児童が発想を広げ見方を変えて作品づくりに臨めるように配慮していると思う。発想の広げ方や探究心を刺激するような囲み部分は、子供たちの言語活動を深めさせることにもつながると思われる。

3つ目として、材料、用具の扱いに工夫が挙げられる。各題材で取り扱う技法について、当該学年だけではなくて、必要に応じて前の学年でも初歩的な扱い方を紹介するなど、児童が適切な扱いに慣れるために、その後の学年でも繰り返し取り上げ、用具等の安全な扱いに配慮がなされている。さらに折り込みの道具箱、パレットコーナーにも主な用具や材料の適切な扱いがまとめて掲載されている。

4つ目として、生活や社会とのかかわりを豊かにする造形活動の工夫があることである。裏表紙には、1、2学年では遊びの中にある造形、3、4学年では身の回りにある造形、5、6学年の学校や社会にある造形を扱い、図画工作の学習が生活に活かされている様子を示している。このようなことも大変いいのではないかと思う。

以上のことから、開降堂出版を推薦する。

委員長

私も、開降堂を推薦する。

表紙の見開き3ページ建てに掲載されているそこには、世界や日本のアーティスト、児童の作品、それは、学習指導要領の図画工作の目標にある造形的な創造活動の基礎的な技能を培い、豊かな情操を養うに適した出会いのページであると思う。

目次であるが、各タイトルの横に、絵、工作、立体等の記載もあって、表現する題材内容が一目でわかるようになっている。またさらにその右側に、そのときに使う主な用具、材料も記入されている。そうすると、これは児童が自主的に用意したり、また教師のほうも指導したり、活用したりするのにも適しているのではないかと考えた。

また、図画工作の学習活動で育つ力を大きく3つの目当てとして挙げ、先ほども発言があったが、自己評価ができる振り返りもある。こういうことで、基礎的な能力が培われ、豊かな情操が養われるよう工夫されている図書だと考えた。

それでは、図画工作については開降堂でよいか。

委員一同

よい。

委員長

図画工作は、「開降堂」を採択する。

続いて、家庭である。天沼委員から発言をお願いします。

天沼委員

私は、家庭科の教科書は東京書籍の教科書を推薦したいと思う。

その理由は、まず、教科書に書き込み欄として、食育チェック、環境チェックがあるなど、学習を確認しながら進めるための助けがあると思う。毎日の食事と生活リズムや、1年間の家庭の仕事を見つめようなど、1日あるいは1年間の流れ全体を考えると

指導に役立つと思う。説明に関しては、針や糸の使い方などでは、ミシン縫いでミシンの使い方や片づけ方までも丁寧に説明がなされており、初めて学ぶ子供たちにとってよいと思う。また、食事の調理でも、家庭で食べられ喜ばれる食事調理を、計画段階から実施まで順を追って学習できるようになっていて、大変わかりやすく扱われていると思う。全体として、安全、教育に関する事項も多く、安全教育、環境教育、消費者教育まで領域が広がっていると思う。

基礎、基本的内容と発展的内容については、家庭科の基礎技能としていつも確かめようというコーナーもしくは、ページで19項目が要所に配置されており、例えば買い方の手順、調理実習の手順については、見開きページで順に説明されており、大変わかりやすくまとめられている。また「飛び出せ」で発展的な内容を扱うという配慮がなされている教科書であると思う。

以上から、東京書籍の教科書を推薦したいと思う。

#### 内藤委員

私も、東京書籍を推薦する。

その理由としては、まず、目次が見やすく工夫され、2年間の学習の見通しを立てやすいこと、学習の目当てや流れや作業の手順が、適切なイラストや写真、言葉を使って示されているので、わかりやすく活用しやすいこと。このことで興味・関心・意欲が喚起され、学習活動を通して生活を工夫する楽しさや物をつくる喜びを味わうことができると思う。また、「いつも確かめよう」という振り返りなど、書き込みができるなど、家庭科の基礎的事項の定着を図ることができるよう工夫されていること。さらに、食育や環境に関する別表があり、成長の見取りがわかりやすくできることなどが挙げられる。

以上の理由から、東京書籍を推薦する。

#### 安藤委員

私も、東京書籍を推薦する。

5年生の最初に、家族のためにお茶を入れる実習を含め、家族生活にしっかりとページを割いていることがいいと思った。家族や家庭の形態が多様化している昨今であるが、日常生活の大切なことだと思う。この日常生活の基本に関連することで、作業や実習の最後は必ず「お片づけ」で終わっているところがとてもいいと思った。片づける習慣はとても大切だと思う。また、調理やお裁縫等、写真や絵で示される作業の手順がわかりやすいこともいいと思った。

もう一つ、特に好感が持てたことに、資料に出汁の種類が多く載っており、日本国の中にもいろいろな食の文化圏があるということを学ぶことができる。情報化社会の中でいろいろな食文化をメディア等で目にしたりすることはあるが、出汁のような食生活の基本においても、文化圏に差異があるということは子供たちにもぜひ知っておいてほしいと思う。

以上のことから、東京書籍の教科書を推薦する。

#### 教育長

私も、東京書籍の『新しい家庭』を推薦する。

まず、構成であるが、内藤委員も言われたように、巻頭ページの目次が2年間の学習を見通すためのガイダンスとして活用できると思う。家庭科は、5年、6年で学ぶが、巻頭ページに家庭科と関連する4年生までの学習が示されている。すべての学習活動に、「見つめよう」、「計画しよう」、「活動しよう」、「生活に活かそう」、「新しい課題を見つけよう」の3ステップを設けて学習の見通しを持たせていることもいいと思う。さらに各学年の終りに、「これまでの学習を振り返ろう」のページを設け、学習を振り返るなど、自己の成長を実感できるように工夫されている。

内容面も、最初の調理実習に安藤委員も言われた、「家族のためにお茶を入れよう」が設けられ、家族の一員として家庭生活を基盤とした内容になっている。また、食育の充実について食育チェック表を、5年の初めと終り、また第6学年の終りと、3回活用できるようになっており、児童の成長を実感できるようになっている。

表記に関しては、レイアウトに工夫が見られて、例えば視線が横に流れるように、左ページから右ページに配置され、制作や調理などの実習や観察に関する手順がわかりやすいと思う。また、目次からのページの端につけたツメがあるので、索引は容易に使いやすいという点もいいと思った。

以上である。

#### 委員長

家庭科は、東京書籍、開隆堂とこの2社であるが、東京書籍のほうもよく構成されており、どちらにするか悩んだのであるが、私は、開隆堂のほうを推薦したいと思う。

家庭科の学習は、家族の一員として、また、将来自立して人間らしく生きていく上で必要なことが身につけられる大切な教科である。この調理、裁縫は、初めて学ぶ児童にとって興味を持って取り組めるよう工夫されているづくりであり、わかりやすいということが非常に大切だと思った。用具の名称、使い方、手順も丁寧であるし、安全面への配慮やチェックなどもわかるようになっている。そしてすぐに役立つ、環境に優しい、具体的な行動への指針となる資料も掲載されていた。

具体的に申し上げますと、環境を考えた一例とし、例えば食事をつくる。量をたくさん作り過ぎたり、またはお皿に油っこいもの、マヨネーズなどがたくさん残ってしまった。それらを排水口に流したら、それが流されて海がきれいな元の水に戻るまでには、果たしてどのくらいの水の量が必要なのかという具体的なことも示されており、すぐに生活に役立てるようになっているところ等もなかなかいいと考えた。

それでは、家庭については東京書籍でよいか。

#### 委員一同

よい。

#### 委員長

家庭は、「東京書籍」を採択する。

続いて、保健である。安藤委員から発言をお願いする。

#### 安藤委員

どの教科書も健康な生活の大切さや、心と体の成長と心の健康、けがの防止、病気の予防等、それぞれの項目について丁寧な説明があり、学習しやすい工夫がしてあると思った。他の教科書と同じように、1つに決める作業は難しかったのだが、私は、大日本図書を推薦することにした。私が推薦するに至った理由は次の通りである。

各単元導入にクイズなどがあり、子供たちが興味を持って取り組むことができるような工夫があると同時に、単元後の振り返りでは書き込むページが設けられており、ワーク的な要素もあると思った。3、4年生の「体の発育、発達について」の単元においては、性差や個人差について「心配なくいい」、「大丈夫なこと」というような表現がしてあり、教科として何かを学ぶだけでなく、成長期にある子供たちに安心感を与えてくれると思った。5、6年生の教科書では、特に喫煙、飲酒、薬物の使用について学ぶ単元において、それらの体に及ぼす影響を学ぶと同時に、いずれも「断り方」を考えさせており、実生活の中で役立つことが学べるようになってきていることは、大人として、また子供を持つ母親として特に評価したいと思う。

以上の点から、大日本図書を推薦する。

#### 内藤委員

私は、学研教育みらい社を推薦する。

学研教育みらい社は、学習内容が明確で、児童の発達段階を踏まえた系統性のある編集になっているなど優れていると思う。また、他社に比べ内容が精選され、全体が簡潔な構成で分量も適切なこと、学習のねらいが明確に示され、説明のポイントも的確なこと、資料の挿絵や写真が新しく学習のねらいによくマッチし、文章とのバランスもよいことなどの理由で、わかりやすく活用しやすいと思う。さらに、それぞれの立場の人からの話など、発展学習等に効果的に活用できる点も優れていると思う。

以上の理由から、学研教育みらい社を推薦する。

#### 天沼委員

私も、学研教育みらい社の教科書を推薦したいと思う。その理由について述べたいと思う。

本書は、本文中大切な事柄は、黒太文字ゴシックで見やすくなっていて、非常に要点を把握しやすいと思った。

内容について若干触れさせていただく。3年生で毎日の生活と健康で記入欄が多く、児童自身の基本的な生活習慣についての形成期でもあり、気づかせることや知らせることは大切なことで役に立つものと思った。また、メモ欄があるのも同様で、自分を見直す契機として使うこともできる。

次に、「育ち行く体と私」では、イラストが大変きれいで見やすく読みやすいという点もよいと思う。5、6年生では「みんなの健康」では、「心の健康」、「けがの防止」、「病気の予防」と分かれており、健康面からの扱いと病気に対する抵抗力を高める生活上の注意事項などの説明があり、子供たちの生活改善や予防について学ぶよい材料となって

いると思う。また、食中毒を予防することも、日常生活の中で家庭でも注意すべき大切なこととして紹介されている。最後に、よい生活習慣のチェックリストなど、小学生から気をつけるべきことがあり、自分のこと、家族の人々のこと、それらを考え行動に結びつけることができると思い、本書を選択した。

私は、学研教育みらい社を推薦したいと思う。

## 教育長

私も、学研教育みらいの『みんなの保健』を推薦する。

理由の第一は、学習したことを生活、行動に結びつけるために記述させる欄を設けていることが挙げられる。保健の目標は、健康で安全な生活を営む資質や能力を育てることにあることから、習得した知識を実生活に活用させる思考力を育むことができるのではないかと考える。

次に、児童の視点に立った作文や事例をイラストとともに多く取り入れているので、児童が学習課題を自分の問題として実感することができ、みずから健康的な生活をしていこうという意識を高めることができるのではないかと考える。また、構成や表記について、各項目にここで学ぶことが明示され学習のねらいが明確になっている。また、大切と思われる用語等や色を変えるなど、わかりやすい構成となっていると思う。

具体的などころでは、「育ち行く体と私」において、体の変化について児童の作文を取り入れることで、児童の不安感をやわらげようとしている。またけがの防止においても、対処が具体的に記されている点も評価できる。

なお、この保健科で最後であるので、私からも一言話させていただきたいと思う。平成12年に第1回目の教科書採択を行ってから、今年で小学校については4度目の教育委員会としての採択になる。それまでは、都教委が一括採択をしていたものが各区の採択になったわけであるが、その間、学習指導要領も大きく変わった。特に今回は、前回の学習指導要領から、特に先ほど申したが、国語、社会、理科、算数の内容が増えて、総合的な学習時間が減って、さらに教科書はないが、外国語活動が入ってくるなど、小学生にとって大きな変化がある。

そのようなことを受けて、各教科書会社とも、各教科においてそれぞれ工夫をこらし、まさにそれぞれのよさを教科書から読み取ることができたが、教育委員としては、1つの教科書を選ばなければならないということから、これまでいろいろ申し上げてきた。いずれにしても、この採択にあたっては、練馬区の教科書協議会、さらには調査委員会、各校研究会等のご意見も参考にしながら、採択の事務をさせていただいた。

以上である。

また、協議会、調査委員会、各校研究会の皆さん方に心からお礼を申し上げます。

## 委員長

ただいまの教育長の最後の発言は、私たち委員みんなの思いと同じであるかと思う。

私であるが、保健も数社あるが、私は、光文書院を推薦する。

心と体の健康というのは、児童が自分の将来の夢に向かって生きていく、そして実現させていく上で欠かすことのできない大切な基盤である。その健康について、意識して

学んでいく第一歩が3年生の保健の学習であると言えるのではないか。その3年生が、関心を持って学べるように、図、写真、マーク、ナビゲーターを使い、チェックや書き込みもできるようになっている点がよいと思った。また、「ためになるマーク」というのがついてあるが、そのコーナーは、より知識が深まるようになっていて、知ることで意識が深まる、そういう記述があるのもいいなと思った。また、4年生で学ぶ非常に個人差のある思春期の体の変化の単元であるが、具体的で丁寧にできており、児童にはわかりやすいのではないかと考えて光文書院を推薦する。

それでは、保健については学研教育みらいでよいか。

委員一同

よい。

委員長

保健は、「学研教育みらい」を採択する。

以上で、全種目の採択が終了したので、採択した全種目の発行者を確認する。

国語は「光村図書出版」、書写は「光村図書出版」、社会は「東京書籍」、地図は「帝国書院」、算数は「東京書籍」、理科は「大日本図書」、生活は「教育出版」、音楽は「教育出版」、図画工作は「開隆堂」、家庭は「東京書籍」、保健は「学研教育みらい」である。

以上を採択することでよいか。

委員一同

よい。

委員長

それでは、議案第41号については、先ほど種目ごとに述べた発行者の教科用図書を採択する。

以上で、第15回定例会を終了する。